



奥 久明

2025年大阪万博で 本町の魅力を全世界へ

問 万博開催地が大阪に決定したことについて本町はどのように考えているのか。

答 大阪・関西のみならず日本全体の地域活性化の起爆剤として期待されるものと考えている。

問 能勢町の魅力を全世界にアピールできる格好の場だと考えるが、本町の考えを問う。

答 本町においても観光分野をはじめ産業や暮らし等、様々な分野での波及効果を生み出していければ良いと考えている。

問 万博を活用して本町の魅力をアピールするために今後、具体的にどういったことに取り組んでいく必要があると考えるか。



問 万博に向けて本町の魅力をアピールするとして、世界に向けた本町独自の魅力は何と考えているのか。

答 万博のテーマの「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現に向けては、地球環境との共生や健康の基礎となる食、地域のつながり、生涯活躍など、日々の暮らしの中で連綿と受け継がれてきた有形・無形の資源を磨き、際立たせることが肝要であると認識している。



答 万博のインパクトを活かし、多様な機会をとらえて本町の魅力の発信に取り組みとともに、その先にある持続可能な地域社会の実現に向け引き続き取り組んでいく。

一般質問



大平 喜代江

平成31年度を計画の見直しの時期とする「第2次能勢町ごみ処理基本計画」について、これまでの2年間にわたる計画実施の状況や課題について。

問 ごみの排出抑制の推進状況と課題について

答 現在も生ごみの水切りを主として、減量の取り組みと、自宅で比較的簡単に生ごみを堆肥化する取り組みに努めている。



問 資源ごみの分別収集による減量化再資源化の現状と課題を問う。

答 リサイクル率が18から19%で停滞している。引き続き集団回収への助成やリサイクル推進委員の協力を得て取り組む。

住民参加による ごみ処理行政の確立

問 再生利用の促進状況と課題を問う。

答 今年度、環境フォーラムへの参加を呼びかけ、再生利用促進に努めている。



問 プラスチックごみを減らす取り組みを問う。

答 現在事業所などがプラスチックからの代用品に移行する機運が高まりつつある。

プラスチックごみ問題は、始まったばかりで、国の動向や代用品の拡充、浸透を踏まえた上で今後、検討する。

問 住民参加によるごみ処理行政の確立について、町民、事業者、行政がそれぞれの役割と責任を果たすべく、意識の向上に努め、パートナーシップを確立し、互いの理解と協力のもとに取り組んでいくとされているが、町民、事業者、行政の役割と責任とは。

答 ごみを排出する者、回収する者、処理する者のおのの役割を認識することが大切である。

